

●国際ロータリーテーマ



SABAE ROTARY CLUB

●クラブ活動方針

2015.7-2016.6

塩梅よく

会長 小部 隆充
幹事 大橋 良史

●4月 第4例会

●R I 第2650地区スローガン

『クラブに「個性」と「憧れ」を!』

点 鐘 12:30~

四つのテスト

ロータリーソング斉唱

会長の時間

幹事報告等

●第2752回 平成28年4月22日(金)

卓話

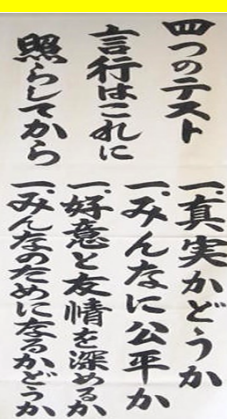
福井県立大学 地域経済研究所
教授 地域経済部門リーダー

博士 南保 勝 様

テーマ 「福井地域学のすすめ」

▼第2751回例会報告 平成28年4月15日(金) ▼鯖江商工会館 3階中ホール 出席率 74.1%

四つのテスト



我等の生業

佐野 直美 ソングリーダー



を受け持つ大手電力が不足分を補う。以前、北陸電力の方が卓話で、北電は日本国中で一番安い、と説明。その通りで、新しいものになる必要はない。注意願いたい。

感謝状贈呈
米山 功 労者

田中敏幸会員(右)

幹事報告

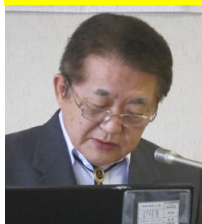


①先日のアクトの千回記念例会、9会員参加。田村副会長の長女、山下芝子さんも入会前提で参加願った。懇親会にも3名参加し、千回をお祝いできた。

②本例会終了後、クラブ協議会開催。役員、委員長の出席をお願いする。

大橋 良史 幹事 ③4月29日(金)は、例会休会。5月6日(金)は、終了後理事会を開催。4月16日はリサイクルペーパー回収日。本会館北出入口へ、よろしくお願いしたい。

お客様の紹介と会長の時間



本日のお客様、陸上自衛隊第372施設中隊鯖江駐屯地、司令、林豊様(写真右)。後ほど卓話願う。



4月1日に始まった家庭向け電力の小売り自由化。顧客獲得のための訪問販売や電話勧誘が増え、消費団体への相談や苦情が急増している。中には「何もしないと停電する」等と、虚偽の話で契約を迫るケースや太陽光発電システムの押し売りも。政府は悪質な勧誘にだまされないよう、注意を呼び掛けている。

電力取引監視等委員会は悪質業者に騙されないよう、注意点を「5つのうそ」としてまとめた。①新しい電力会社を選ばないと停電する。②スマートメーター取り替えには費用がかかる。③電力会社を変えると、新たに電線を引く必要がある。④電力会社が倒産したら停電する。⑤小さい電力会社だと、電力供給が不安定になる。

①実際には電力会社を選ばないと停電することはない。何も手続きしなくても、中部電力や関西電力等大手電力との現行契約は継続する。②スマートメーターの取替費用は無料。③新たな電線工事は不要。④仮に契約した新電力が倒産しても大手電力に供給義務があり、停電しない。⑤小さな電力会社だからといって、供給が不安定になる事もない。新電力が十分に電気を調整できなくても、送配電



ニコニコBOX報告

(敬称略・順不同)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1 小部 隆充 | 3 齋藤多久馬 | 4 岡本 圭子 |
| 2 大橋 良史 | 3 佐野 直美 | 5 木村 明 |
| 3 窪田 健一 | 3 田村 康夫 | 6 田中 敏幸 |

- 1: 本日もよろしくお願いします
- 2: 3、よいことがありました
- 3: 林様の卓話に期待して
- 4: 3、熊本の地が落ち着くことを祈って
- 5: よいことがありますように。早退します
- 6: 早退します。明日はリサイクルペーパーです



■R I 第2650地区2016-17年度 地区研修・協議会

4月17日(日)午前10時から、国立京都国際会館で標記研修・協議会が開催され、当RCから9名参加(下部写真と酒井芳則会員)。

中澤ガバナー挨拶等の全体会議に続き、会長・幹事・奉仕プロジェクト・職業奉仕等の分科会ごとに、次年度地区活動方針等説明を受け、共有しました。



卓 話 陸上自衛隊第372 司令 林 豊 様 施設中隊鯖江駐屯地 テーマ「鯖江駐屯地の役割」

昨夜から、熊本地震が発生し、当駐屯地も24時間情報収集体制をとっている。このような服装で失礼する。では、鯖江駐屯地の活動を紹介します。少しでも理解願いたい。

説明の内容は3点。①駐屯地の概要。②施設中隊の概要、活動。③地域の誇りとその取り組み。

私は、2等陸佐（中佐）。通常、防衛大学を出ると最初に3等陸尉（少尉）に任官。小隊長時代を過ごす。



出身は石川県金沢市。この職について、初めての北陸勤務。非常にありがたい。H9年に防衛大学に入り、同13年に広島13施設中隊という施設科の部隊に配属され、小隊長時代を過ごした。施設科は元々中世のヨーロッパで城壁を崩して攻撃をする。その際トンネルを作ったり、爆破し堅牢なお城を壊して進んでいった。そういう部隊が発端。今でも、爆破や地雷を処理する作業。状況により、戦闘部隊の普通科である歩兵部隊の前に行き、敵前で作業をしなければならない。持っている技術を使って、何とか難局をクリアしていくのが、施設科部隊の任務である。

平成19年、広島13の部隊の時、ゴラン高原派遣輸送隊に半年間、参加。今、ISISの占領地帯となっている非常に危険なゴラン高原。当時は、とてもものどかな感じで、イスラエルとシリアの第4次中東戦争以来の、国境地帯を監視する形で派遣された部隊。ここでも施設作業、道路の構築等をやってきた。H21年に、米陸軍工兵（施設）学校で研修を受けた。その後、防衛大学で教鞭をとって、H25年には陸上幕僚幹部で人事を担当。H27年8月より、現職。

■①駐屯地の概要

近郊の駐屯地では、石川県金沢市に陸上自衛隊金沢駐屯地がある。小松基地には航空自衛隊、舞鶴には海上自衛隊の舞鶴基地。陸上自衛隊として重要なところでは、第10師団司令部がある守山駐屯地まで約200kmの位置。中部方面総監部がある伊丹駐屯地には200kmの位置。そういった形で、比較的中心部からは離れた所で任されている部隊。

鯖江駐屯地は、吉江町にある。隊員の一部が住んでいる官舎は、東米岡に位置し、大体この周辺に住んでいる。駐屯地の沿革。S38年現在地に分屯地として発足。当初、この地は、湿地や田畑が広がっていた。直ぐに建物が建てられない状況。日野川からたくさん石を運び、敷地増設をしてから部隊が入ってきている。S41年駐屯地に昇格。今年で分屯地としては53周年、駐屯地となってちょうど50年。

駐屯地所在部隊は、5つの部隊から作られている。372施設中隊は施設科部隊の部隊。会計隊という部隊で駐屯地の会計業務を支えている。施設支援隊は、施設自体の整備と車両の整備。通信部隊として電話回線を維持する基地通信中隊。交通小隊、道路を作る作業。渡河器材小隊、橋を架けたり、渡河ボートを使って車をボートに乗せて運ぶ。駐屯地内や近郊の司法警察権にかかわる、秩序を維持する警務隊がある。概ね120-130名の隊員で構成されている。



隊員の特性は、50%近くが福井県出身。若くして入ってくる、任地正隊員制度があり、

何年か経ったら自衛官を卒業して、民間へ出ていく人もいます。そういう若い隊員は関西の人が多い。80%は親元から離れて、鯖江で暮らしている。

続いて施設の配置。東西320m、南北170mと、陸海空158駐・分屯地があり比較的小さい駐屯地。昔、土砂崩れが発生し、心配な地域である。

過去に行った駐屯地の災害派遣の状況。一番大きいのはH16年福井豪雨の際、62名の隊員で支援を実施。足羽川の氾濫。先の東日本大震災の際、鯖江の部隊は陸前高田市において、人命の救助、行方不明者の捜索にあたって、56名の隊員が6月まで活動した。当時、我々の部隊は建設機材が多いので、がれきの除去を行った。また、台風12号、奈良県五條市の作業では、流木の除去、行方不明者を捜索。

■②施設中隊の概要、活動

先ほど述べたように、交通と渡河器材小隊がある。主力の装備品については、自走架柱橋がメインの小隊。トラックの上にあるものを広げて、橋を架ける車両。1両で10m橋を作れ、接続可能。6両保有し、最大60m橋を繋ぐ事ができる。元々は戦車を通すための橋で、42tまで通れる。民間にあるものであれば、基本的に何でも通することができる。実際、東日本大震災の時も、わが部隊ではないが孤立地域へ橋を架けて、通れるようにした実績がある。防災訓練の際、救急車の搬送路として活用している。2月に福井県警の共同訓練があった際も警察車両を通した。

10隻ある渡河ボート。大野市防災訓練で展示し、好評だった。昨年9月に鬼怒川の災害派遣に使われた。ボートによる避難支援、土嚢による水防活動がある。当時ボートは45隻使われた。テレビの報道で、濁流の中、屋根や電信柱にとり残された方をヘリコプターで救助するシーンが多く出ていたが、航空機による救助は723名。ボートによる救



助は、目立たないが綺麗にでき1,292名の方が避難。

鯖江駐屯地には、建設機材が多くある。油圧ショベル4両。他にローダーやブルドーザ。

森を開いて、道路を作る能力がある部隊。少し昔は、部外工事を盛に行った。当駐屯地が行った県内の主なものは、S55-56年に鯖江西部林道、S56年に鯖江中学校移転用地造成、S60年に鯖江市スポーツ林道と一乗谷に抜ける山道等。今は、民業圧迫を避けるためしていない。

■③歴代駐屯地司令の地域の誇りとその取り組み

それを達成するために地域に協力。陸海空合同市中パレードを福井市で実施。金沢や小松の部隊が参加。

次に駐屯地記念行事。今年も10月に実施する予定。そして、防災訓練に参加している。特に駐屯地近郊の平和台と人工呼吸や心臓マッサージ法の指導会。他に県や市防災訓練に参加し、近くの子供たちに飯盒炊飯を教えたり、ご縁市等に参加し、鯖江駐屯地を知ってもらう活動を展開。

また、職場・生活体験として、市役所や市内中学校、小学校、幼稚園それぞれに支援をし、理解願っている。レディース駅伝協力、三十六連隊史跡公園清掃作業、JK課リーダーシップ育成プログラムを実施。

なお、現在、南スーダンに12月から隊員7名を派遣中であるが、地域の方に支えてもらっている。

説明は以上だが、基本的に鯖江市内の中でも吉江の地に駐屯地があることを知らない方がいるので、少しでも理解願いたい。過去には、鯖江三十六連隊があって、非常に市民が誇りをもっている。鯖江駐屯地についても地域の方々、誇りに思ってもらえるような存在でありたい。

引き続きご指導ご鞭撻賜りたく、よろしくお願いしたい。